

【道端の自然】

「木漏れ日の中で」

朝晩はぐんと冷え込むようになりましたね。でも空がカラッと晴れて、日中はぽかぽかというある

日、緑地作業をしていると木漏れ日の林の中を薄茶色のものがひらひら、ちらちらしていました。近寄ってみると、無数の小さな蛾、フユシャクが飛び回っているのです。木立ちを通して差し込む冬の光を受けて飛び回る姿は、幽玄の世界そのものです。それにしても、こんな寒くなってから活動始めるなんてアマノジャクな蛾ですね。

実はフユシャクは成虫になってからは、何も食べないのだそうです。花の蜜や樹液を吸ったりする必要がないので、冬でもかまわないのでしょうか。

こんなにもいっぱい飛んでいるフユシャクですが、これは全部オスです。というのは、メスは蛾だというのに羽がほとんどなく、飛べないのです。メスたちは、どこにいますか？ じっとしていると背景に溶け込んでしまってなかなか見つけれられません。そこでメスはフェロモンを出してオスを誘います。目の前で

飛び回っている蛾たちは、メスのかすかなフェロモンを追い求めて右往左往しているオスたちだったのです。



フユシャクガ。止まると見つけにくいですね。

作業を終えて帰る途中にも、フユシャクたちが舞っていました。でも、朝とくらべると少なくなっています。もしかすると、メスを見つけてカップルになった蛾たちはどこかにシケこんで、あぶれているオスだけがまだうろちよろしているのではないのでしょうか。

あなたたちも早く良き伴侶を見つけて下さいね～

(小川)



フユシャクのメス